



第162号
 発行所 上高井教育会
 発行人 上高井教育会長 吉澤慶富
 編集人 会報編集委員長 黒岩幹夫
 印刷所 須坂新聞社

子どもの「思考の練り」 教師の「つなぐ力」を

研究副委員長 北島 秀樹

本年度は全体テーマ「子どもにとつて、わかり、魅力ある授業のあり方」や中心講師谷川彰英先生のご指導を継続して三年目になる。この間、地道な努力を重ね、着実に授業の質的向上が図られてきた。例えば、それは教材研究や発問等の指導が子供の実態に即して具体的になってきている、教材の基礎的・基本的な内容の決めだしの上で、学習内容の焦点化を図ろうとしている、体験を通して子供が実感を得られるような学習展開の工夫が見られる、等々に確かな変化が出てきた。

しかし、課題もまた多い。四月十九日研究総委員会の折りに、谷川先生は「良い授業づくりのための教師の力」として、子供はどんな気持ちで、どのように学習しようと

しているか「読む力」、子供の発言の自身が何かを見取り、とつさに判断して、どういう方向へ持っていくべきかを考える「つなぐ力」、良いところを的確につかんで「認める力」を挙げられ、問題解決学習には子どもの関心や意欲は不可欠であると話された。これは、「子どもにとつて、わかり、魅力ある授業」を究明する教師の備えるべき力や学習の中核である子供の意欲や関心について言及されたものと考えられる。

そのご講演を受けての第一回研究日における算数科の授業と講師のご指導を振り返り、授業改善のための今後の課題を探りたい。

仁礼小五年生の直方体の体積の求め方の授業は谷川先生も感心するほど周到な準備と深い教材研究がなされ、細かな指導案の下、若い先生の頑張った授業が展開された。

1. 24個合わせてラップに包んだ直方体で具体的な操作を通して、自分の考えを持ったせ、発表し合った後、直方体の体積は「縦×横×高さ」で求積できることに気づかせる授業で、実物模型や操作活動は子供に自分の考えを持たせ良い手立てになっていたし、友達のを聞いて多様な解法のあることも気づいていた。

本時の谷川先生のご指導の主なもの次は次のようであった。

- 遊びの要素を取り入れた活動や日常的なものと体積を結びつけて考える活動により子供の主体的な追究を。
- 机間巡視が長い。生かせる範囲がすばい。
- 子供達の意見を次の展開

に生かしていく、教師のつなぐ力の必要性。

- 学習カードをもとに、子供同士の「練り」「意見交換」を通すことが大事。
- 子供の動きをつかんで授業を組み立てていくこと。

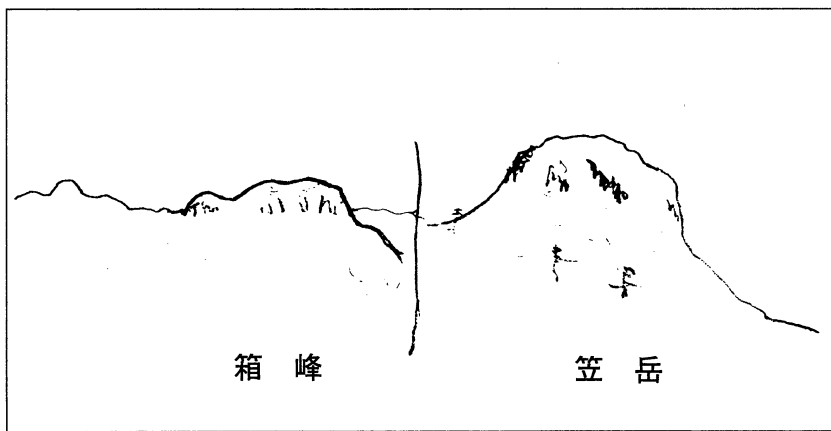
次回の研究会に向かつて、子供の思考の練りの場を大事にし、教師のつなぐ力の向上を目指したいものである。

須高の山と川⑦

笠岳溶岩ドーム群

青木 廣安

富土山も直江津あたりの日本海が見える。直江津辺の海で近づけない。



漁場の境界を決めるように二つの山頂を結ぶ線を用いるが、その「山立て」にも使っている話も聞いたことがある。

笠岳は実は神池山の寄生火山と思われる。神池山の火山体のほうが大きいことや山体の西尾根筋にも溶岩ドームを噴出させているからである。

日滝原から松川入りの上流筋に黒い岩山がラクダのコブのように突出するのが見える。これが箱峰でその隣にもドームが見える。いずれも南側は鎌田山に北側は角間川の上流本沢に面し、山頂部は五十メートルほど

=教育会だより=

- 10 第41回上高井教育研究会。於相森中学校
- 5 第37回上高井郡市PTA研究会。於常盤中学校
- 17 第6回常任委員会
- 20 教育課程研究協議会
- 25 第7回代議員会・信教各種研究調査編集委員中間報告会(2)
- 27 第46回日本連合教育会高松大会。本会参加4名。
- 26 上高井教育会報162号発行。研究委員会中間総括特集

理科教育研究委員会

西原 隆雄

この頃、子どもたちの生活経験を生かした展開がしにくく、どうしても子どもが追究する理科学習から離れがちの悩みを聞くことがある。理科学習は、子どもたちが喜びをもって追究し、自分なりの問題解決能力を伸ばすことであり、子どもたちの自発性を開発することでもある。本年度第一回目の実証授業は、旭ヶ丘小学校六年敬組の田鍋隆行先生に授業をしていただいた。

特に、素材と子どもたちとの関わりとして、素材が子どもたちの立場から学習する価値のあるものを次の視点でとらえ、検討した。

(1)基礎的基本的な内容を含んでいるか。

(2)子どもの力でねらいに迫れる内容をもっているか。

(3)子どもたちが親近感を持っているか。

(4)個々の発想を生かした追究が可能であるか。

(5)連続した追究が可能であるか。

また、子どもたちの活動を支える教師の出というところで「指導・助言」「支援」に変更し指導案を検討した。

「物の燃え方と空気」では、子どもたちに共通の体験をさせ、子どもたちの願いを明確にし、子どもたちにとって価値のある学習場面を設定した。子どもたちは、勢いの強い火を燃やしたいと願いを持ち、そのために、物が燃えることの仕組みを発見しようとして、空気の動きに目をつけた。そこで、予想に基づいた自作の実験装置で、空気の動きを追った。その結果、炎のまわりをぐるぐる回りながら上に出ていく、ろうそくのところで炎に摩擦して出ていく、穴から入った空気は炎に入ってもえてしまうなどに気づいた。

実証授業を通して、いろいろな実験結果をどう整理するか、わかりやすくどう表現するか、現象から質的な見方、考え方へどう変換させるのか今後の課題となった。(豊洲小)

高める授業を

中間報告

生活科教育研究委員会

春日山さだ子



七月六日(水)の第一回研究委員会において、日野小学校二年松組池内容子先生の授業より学ばせていただきました。

日野地区にある農事試験場の方々の協力を得ながら、麦を昨年の十月より育て、刈り取った後の脱穀の場面を見せたいいただきました。『麦』という珍しい貴重な素材で、子ども達の思いが麦の成長と共にふくらんできていて、どうやったら脱穀がうまくできるかな、棒でたたこうかな、足でふもうかな、手でとうろかなと各グループで工夫しながら表束から麦を取っていまし

道徳教育研究委員会

牧 康夫

「自己を見つめる」

「友情とか、思いやりというものは何かを手伝うことだけではないということがわかった。」

「人のことを待ってやっていることが友情だと思っていたけど、こういう友情もあるんだと気づいた。」

本時の学習で培った、よき高められた価値に照らして自己をみつめることができた授業であった。

委員会のテーマ「子どもが道徳的問題に気づき、望ましい生き方を求め続ける学習のあり方はどうあったらよいか」を受けて、東中学校のテーマ「自己をみつめ、自立できる中学生になるために、道徳の指導はどうあったらよいか」(価値を含む資料から、より高い価値を自覚させるための指導のあり方)と設定し、東中学校一年二組の成沢幸之先生によって実施していただ

た。ひたりこんで脱穀している中から、自然に手を貸し合っている、声をかけ合っている、洗面器に集め、たまっていることに満足な様子でした。

その洗面器からゴミを取る段になると、吹いたり、上からパラパラ落とし風でゴミを飛ばす等、なかなかよい知恵を出し合っていました。

こうした子ども達が『クッキーを作りたい。』という願いから出発し、一人ひとりから種まきから脱穀まで関わって、麦への思いをふくらめ強めていった息の長い活動は、自然に友達との協力を生み、今までの生活体験からの知恵を駆使して、次々に起きてくる課題を解決しようとするエネルギーを生み出していったように思います。池内先生の穏やかな声に、子ども達がさつと行動し、汗だくになって広い体育館で麦と格闘した姿が、目に焼きついていきます。

講師の花岡澄指導主事先生より、「子ども達は、協力」を大事に考える余り、グループ全員が同じことをするのだと活動の仕方や手順がしばらく見えていないか、集団性を求める個が大切である、子どものやる気や活動の意図を見ぬいて支え、広げてやるべきである」というご示唆をいただきました。私たちは、このご示唆をふまえ、研究会でいただいたご意見を大切に、より子どもに沿った研究を深めていきたいと思っております。

(栗ヶ丘小)

きました。

主題名「片腕のラガーマン」の資料を中心に友情とか思いやりのある行為のしかたやありかたに気づかせようとした。

導入で、自分の生活の中から誰かに優しくしてもらったことについて発表させ、資料の中のラガーのルールとかやり方の説明をして資料を読ませた。滝澤邦雄指導主事先生から、導入場面では、意欲づけを的確にし、状況を明確につかませておくこともだいじなことだという御指導をいただいた。

展開で、メンバーの行動、デニスの気持ち、筆者の「はっ」としたことなどについて考えさせたことは、ねらいに迫るだいな発問であり効果的だった。「自分だったら」という発問は、自分のみかえしになり、明確になってよかった。デニスのことを考えたら手伝わないと、仲間だから手伝う、余計なお世話など各自の考えを出させ、発問「手伝うのも友情か、手伝わぬのも友情かな。」で、友情とか思いやりについての自己の価値観を深めることができた。

(日野小)

意欲・関心を

研究委員会

音楽科教育 研究委員会

市村 裕子

音楽研究委員会は、昨年に引き続き「豊かな表現をめざして、創造的に学習する子どもに育てるには、どうしたらよいか」をテーマにすえ、基礎力をつけながら表現を高めるための指導のあり方に焦点を当てて研究を進めている。

六月四日 事前研究授業
栗が丘小学校で、六年生、教材「ふるさと」小山百合子先生の授業を小委員で参観させていただいた。「ひとりひとりが生き生きと取り組む合唱指導のあり方より豊かなハーモニーを造りあげようとする児童の育成を願って」という研究テーマで、「ころよいハーモニー」の主題に

よる題材の構成で「ふるさと」の教材で題材を構成し、その表現や関連する楽曲の鑑賞等で授業を展開した。とかく楽曲、教材の表現を中心に展開させてしまふのだが、栗が丘小の授業づくりは、大変勉強になった。

活力ある子どもたちは、一時間中、正しい音程の追求を熱心に行った。講師の池田悦次先生より、小さな合唱曲を今後数曲扱うことが、研究の充実につながるご指導いただいた。

七月六日 第一回研究委員会 教材「友だちはいいな」六年生 小山百合子先生の授業及び授業研究を通して研究を深めた。

西六郷少年少女合唱団のCDを聴いて、美しくひびきのあるハーモニーに心を寄せた子どもたちが、ころよいハーモニーを目ざして、「友だちはいいな」の二部合唱の音程を追求した。「最後のいいな」のところ、ストンと下がっていた。「と言うY児、「二番目の音のフラットのところがうまくいかない」とH児。ピアノで音取りをして、正しい音程を学んだ。授業の終わりでの感想では、「最後は、うま〜く歌えた、きれいだった」等の発言が多かった。

講師の宮田卓夫先生からは、児童を中心にした授業の展開のご指導をいただいた。今後の課題として研究していきたく。

(高山小)

図工美術研究委員会

北澤 晃

「子どもたちがイメージを豊かに広げながら、喜んで造形表現できる指導のあり方はどうあったらよいか。」をテーマに、第一回目の授業研究会を七月六日に小布施中学校で実施した。

小布施中学校では、宮下正己先生に、二学年におけるポスターデザイン学習を通して、テーマにアプローチすべく、授業場を提供していただいた。

学校の玄関わきに縦横一メートル十センチ、高さ八十五センチ、コンクリートでしっかり固められ、正面に校歌の一節「若き芽」なる言葉が刻みこまれているものがどっしりと置かれている。

初めて本校に来られた方の多くは「何だろう」とコンクリートの周囲をまわられる。裏側には「タイムカプセル 平成元年（一九八九年十月十五日）建立、西暦二〇二〇年にひらきます」と記されている。

本校は平成元年に創立百周年を迎え、これを記念して、中庭の記念庭園、上条信山揮

た。授業場面は、生徒が「アイデアスケッチをもとに下絵を造る」である。環境問題への想いが個々の生徒の主張となって具体化してきている。その形をアイデアスケッチで意図した通りに下絵にしていくことが、本時の生徒の願いであり、課題であった。研究会では、方眼を使った教師の示範と実際の生徒の活動とに生じたズレが問題となった。

毫の「不撓不屈」の碑を建立などする中の一つとして作られたものである。

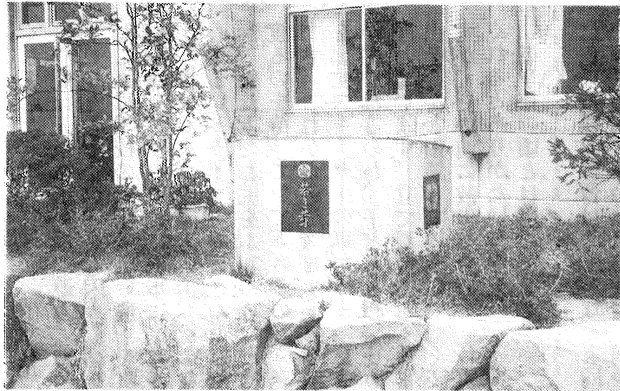
記念として残すものの中で何とか子ども達の手になるものはないものかと考え作ったということである。

大きなポリタンクを地上に三十センチほど出し、あとは地中に埋め、その周り（地中の部分も）をすっかりコンクリートで固めたのである。

上部に須坂市の地図、北信五岳の山なみを硬貨、ゴミ状のものに描きポルトにしているため、水が入りやしないかと心配する方もあるようだが絶対にそのようなことはない

本校の宝⑦ 豊洲小学校

二〇二〇年に関くタイムカプセル



助言者の版画美術館長森山明治先生からも、主眼を書く段階での授業者の迷いが、生徒の迷いにつながっているご指導いただいた。

この授業を通して、私たちが学んだことは、「環境問題から発した生徒のイメージの道筋が、アイデアスケッチと学習カードによって、生徒自身に意識づけられていったこと。更に、この題材における意欲的な追究の支えになっている」ということ。そして、本時においては、主眼に教師の迷いがあり、整っていないことが、生徒の課題意識

という話である。

中にはどんなものが入っているのだろうか。当時おられた方にお聞きするところでは全校児童の図画作品、習字作品、児童一人ひとりの将来の夢、学級目標を書いたもの、百周年記念式典をビデオに収めたテープ、当時使っていた教科書、文房具など学校・子ども達に関係するさまざまのものだそうである。

まだ二十五余年、中のものは眠り続けそのままだが、開封した時に三十年歳をした大人に何を語りかけてくれるのだろうか。子ども達が時々タイムカプセルの側で遊び、手を触れる姿を目にした時、子ども達に一番近い所にある本校の宝かなと思ふ。

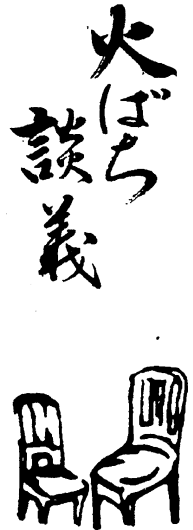
(山岸中生)

この授業場面は、生徒が「アイデアスケッチをもとに下絵を造る」である。環境問題への想いが個々の生徒の主張となって具体化してきている。その形をアイデアスケッチで意図した通りに下絵にしていくことが、本時の生徒の願いであり、課題であった。研究会では、方眼を使った教師の示範と実際の生徒の活動とに生じたズレが問題となった。

を漠然としたものにしたということ。」である。

第二回目の授業研究は、高山小学校で予定している。研究委員会としては、高山小学校での日常の実践に学びながら、小布施中学校における実証授業の成果と反省を生かしていきたい。そのために①主眼の分析②子どもの課題意識の道筋のとらえを研究の重点に置きたいと考えている。そして、造形表現として具体化する子どもの姿をとらえる中で、より楽しい図工美術の授業を模索していきたい。

(墨坂中)



ジャムはやっぱり...

宮崎 泰弘

生まれて初めて、海外というものに、この夏休みにいつてきた。場所は、北欧四ヶ国である。

新婚旅行と言うことでちょっと変わった所に行きたいと思いい、太陽が十時ぐらいいまで沈まない世界へおとずれることになった。

さて、ノルウェーに入つて二日目のことである。ツアーのバスは、あの冬季オリンピックの会場になった、リレハンメル市に寄つて、ゲイランゲルフィヨルドに向かう途中、昼食のためにドライブインに停つた。

僕等は、ウェイトレスにビールを二本たのみ、先に出されたクラッカーを、ラスベリージャムにつけてパリパリと食べた。ツアーの人達も皆、そうやってメインディッシュが来るのを待っていた。ノルウェー人の運転手であるトムさん、ジャパニーズスタイルと言つて真似をしていた。やがて肉の皿が出てきた。デミクラソースがかかかつていて、



アヒルとの生活

佐藤 里香

私は生まれてこのかた犬や猫といったペットを飼つたことがないので、今のクラスを受け持つて二年半、アヒルと一日を過ごし、その大変さ、楽しさを経験することができました。二年で受け持つたときには既にアヒルも子どもたちもお互いすっかり仲良しで、よそ者は私だけ。抵抗なく抱けるようになるまでにたつぷり半年はかかりました。

それから病気、ケガ、逃走。本当にいろいろあつて、今年の春、一羽が死んでしまい、泣き続けた子どもたちの中のひとり、雛を家の人にねだつて二羽買つてきました。小さいうちは毎日に連れ帰つたのですが、そのかわいらしいこと。多量のフンさえ気にならないから不思議です。今ではすっかり成長し、九月の初めには小さい卵も産んで

六年目の新任教師

山崎 史

ふるさと須坂の地に、五年ぶりに帰ってきました。五年ひと区切り。こじつけの様な気もしますが、この四月からは新しく経験することの連続でした。バスケット部の指導もその一つです。

初めて体育館に足を運んだ時、あいさつをしに集まつて来た生徒たちのまつぐな視線に圧倒されました。練習試合などの時にはよく笛を吹きます。が、クラスマッチ以外で吹いた事がなかった位ですから、見落しも多く、一貫性のないものになってしまっています。そんな事はプレーをして

いる彼女たちが一番よくわかっていました。昼間は元気に広い池で遊ぶアヒルたちですが、最近困つたことに学校の東側の広い農道を渡り、ブドウ畑に散歩に出かけてしまふのです。幸い、心優しいドライバーの皆さんが、よたよたお尻をふりふり渡るのを待つていて下さるのです。これから冬、スピードを出すスキーヤーの車が停まつてくれるのか、子どもと心配しています。立て看板でも出そうかと相談しているのですが、その前に散歩をやめてくれるとありがたいものです。低学年の頃とは違い、子ども

くれました。

私たちの生活も忙しくなる一方。生活の一部にアヒルの世話をしてくれるのかの心配を吹き飛ばすように三羽のアヒルはすっかり四年生の一員になりきつてしまつていくらしく心の隅に追いやられることはなさそうです。

春、死んでしまったアヒルを前に、しばらく落ち込んでしまつた姿を思い出した。せめてこの子たちが、卒業するまでは、ガーガー元気に鳴く姿を見せてくれることを願わずにはいられません。(高甲小)

と同じ気持ちでバスケットに向かい合いたいと思います。(相森中)

編集後記

志賀高原から始まつた紅葉も除々に里へと降りてまいりました。

無理なお願ひにもかかわらず、お忙しい中、原稿をお寄せ下さつた先生方、本当にありがとうございました。

本年度も各研究委員会で授業研究が進められております。本号では、その中間報告を掲載致しました。(成沢・久保田)